日本大学薬学部校友会





41



「薬学部校舎」

日本大学薬学部の6年制薬学教育への対応

薬学部長 安 西 偕二郎

医療技術や医薬品の創製・適用における科学技術の進歩、 医薬分業の進展など、薬学をめぐる状況が大きく変化して いる中、薬剤師を目指す学生には基礎的な知識・技術はも とより、豊かな人間性、高い倫理観、医療人としての教養、 課題発見能力・問題解決能力、医療の現場で通用する実践 力などを身につける事が求められております。平成16年 春には、このような要請に応えうる薬学教育を実現するた め、薬学教育6年制への移行が決定され、平成18年度から 新教育体制が発足する事になりました(図1、6年制開始 へのスケジュールをご覧下さい)。本学部は、「人類の保 健、医療及び福祉に貢献する新しい薬学の創造」という理 念のもとに創設され、以来50有余年にわたり薬学教育・研 究を実施して参りましたが、このような学部設立の理念、 社会状況、学生の意識・就職動向などのニーズに照らし、 また、教・職員のコンセンサスの下に6年制学部による教 育体制を選択し、平成29年までの経過措置として設けられ る4年制学部は併置しない事といたしました。また、6年 制学部が完成する平成24年には、4年制の博士課程を設置 する予定でもおります。このような医療薬学教育を推進す るための新教育体制に移行するにあたり、学部運営の基本 方針として「総合大学・日本大学における教学活動との有 機的な融合の中で、薬学教育・研究を実践し、医療に貢献 できる薬学人を輩出する」を掲げ、本薬学部が総合大学の

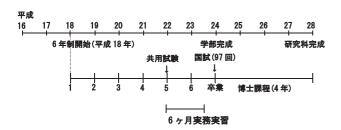


図 1.6年制開始へのスケジュール

一員であるという特質を生かした教育・研究体制を構築し、知識・技能・態度に優れた薬剤師の輩出を目指して参ります。以下に、6年制教育の開始に向けた準備状況・将来計画についてご報告させていただきます。

1. 学科組織の改変-教育・研究部門制の発足

薬学への進学に対する高いニーズに対応するばかりでなく、6年制教育体制において必要となる財政基盤を確立するため、平成16年度、生物薬学科を60名増員し、薬学科と合わせ収容定員を240名といたしました。同時に新体制に向けた研究室間の協力をより円滑にするため、薬学部教育・研究部門制を発足させました。表1に示すように、専門分野が似通った研究室を7部門に束ね、その中には、近年の医療の自己責任化の流れに沿い、本学の特徴ともなるセルフメディケーション研究室や、基礎理科学力の強化・国家試験対策・学園IT化などの対策を主導する薬学教育研究室を新たに設置いたしました。また、薬学科、生物薬学科に所属する研究室も見直し、一部変更しております。さらに、平成17年度には、これまでにはないような薬剤師実務

学部	学科	教育•研究部門 研究室			
		実践薬学	薬事管理学、セルフメディケーション、 病院薬学(H17開設)		
	薬 学 科 (120名)	創薬化学	化学、薬化学、薬品化学、生薬学、 薬品分析学、薬品物理化学		
		総合薬学	薬学教育		
薬 学 部 (240名)	生物薬学科 (120名)	医療薬学	薬理学、機能形態学、薬剤学		
(24041)		臨床薬学	臨床医学、臨床薬剤学、臨床生化学		
		生命薬学	生物学、微生物学、生化学		
		衛生薬学	衛生化学、環境衛生学		
		総合薬学	物理学、数学、英語、ドイツ語、心理学、 法学、社会学、健康・スポーツ科学		

表 1. 日本大学薬学部教育・研究組織

目 次 ———————————————————————————————————	
日本大学薬学部の6年制薬学教育への対応	桜の木の下で
薬学部長 安西 偕二郎	
2	会務報告・・・・・・・1
特集「パーキンソン病とパーキンソン症候群の臨床」	お願い・お知らせ2
臨床医学研究室 助教授 小野 真一	平成15年度決算報告・平成16年度予算案・・・・・・2
4	会費納入報告・・・・・・・2
日本大学卒後教育講座のご案内9	◆表紙・写真
会合予告9	撮影者:
研究会だより10	撮影場 所:

教育を実践するため病院薬学研究室を設置する予定でおります。これらの対策は、いずれも大学全入時代を目前に控えた中で行われる、薬学教育改革の困難なシナリオに対応するものである事をご理解いただきたいと存じます。今後、新設置基準の公表を待って、社会からの要請に即応できる医療薬学教育を実現して行きたいと考えております。

2. キャンパスの整備

収容定員増に加え、6年制教育で必要とされる講義棟(8 号館)と、食堂を新築いたします。8号館には、講義室に 加え、外部医療機関での長期実務実習に先立ち、学部内で 行う事前実習の施設 (模擬薬局を含む)、学園生活をより豊 かなものにするユーティリティスペースが備えられる予定 で、平成17年度着工、平成19年度の使用開始を予定してお ります。既存の5号館(講義棟)北側に建設いたします。8 号館に加え、現在でも手狭な学生食堂を改築し、学生ホー ルの機能を合わせ持つ広々とした現代的な食空間を提供す る計画でおります。食堂については、平成17年度着工、18 年度使用開始を予定しております。完成までの不便な時期 への対応についても周到な計画を進めております。また、 講義のみならず学生生活全般において広範にITを活用す る計画でおり、すでに平成16年度には講堂にIT設備をも うけ、一部の講義への利用を開始いたしました。今後、学 部内LANを一層整備する事により、講義や国家試験対策 に積極的に活用し、合わせて学生のIT活用能力の啓発にも 資する計画でおります。

3. 6年制教育体制の整備

①講義カリキュラムの編成

6年制教育においては、薬学会がまとめた薬学教育の コアとなるモデル・コアカリキュラム(基礎薬学、医療 薬学、創薬科学、衛生薬学)に準拠した教育を全国規模 で実施する事が予定されています。このような精選・統 一したカリキュラムによって、新しい薬学教育の質的担 保を行い、合わせて薬学の修業年限延長の必要性に関す る説明責任を果たす事が企図されており、また、同時に 各大学には、それぞれの個性・特色に応じた多様な人材 養成のための教育を展開する事も求められています。こ のような流れの中で、現在、新カリキュラムの編成に学 部をあげて取組んでおります。学習目標が明示され、既 成の枠組みにとらわれず学生の理解を高める事を目的と した講義の統合化が図られるなど、大幅な改革となって おります。戸惑いを覚える面も多々ありますが、教員が 互いに議論を重ね、新しいコンセプトの下に共同して編 成に取組んでいます。一言でいえば、医療人としての知 識・技能・態度を備えた薬学生を育てるためには、何が 一番良い教育方法であるか見直し、考え出す作業を行っ ていると申せましょう。

②実務実習体制の準備

新カリキュラムでは、医療における実践能力や倫理観を備えた薬学生を育てるため、各種の医療機関において6ヶ月の長期実務実習を必修としています。その実務実習は、大学における事前実習1ヶ月、病院薬局および保険薬局における実習、それぞれ2.5ヶ月、合わせて6ヶ

月を基本として実施されます。しかし、薬剤師免許を持 たない学生が、このような長期の実務実習を行うために は、学生のモティベーションを高める事は勿論、法制度 の見直しや指導薬剤師の準備など、今後解決しなければ ならない問題が多く残されています。それらを遅滞なく 整える事が6年制教育の成否を決定するほどに重大な問 題で、中でも長期実務実習を実施する病院・薬局の準備 では、既に大きな困難な状況に直面しております。従来 の2-4週間の実務実習は、実務実習調整機構など公的な 機関に加え、本学部独自の取り組みによって対応して参 りましたが、6年制では期間が長くなるばかりでなく人 数についても増加するため、医療施設の準備には抜本的 な対策を講じる必要があると考えております。公的な機 関でも周到な準備を進めているようですが、本薬学部に おいては医学部のお力添えを頂きながら、総合大学の特 色を生かした取り組みを既に展開しております。しかし ながら未だ十分とは申せません。今後、校友の皆様に は、病院・薬局実習についてのご協力をお願いする機会 が多くあると存じます。この場をお借りし、是非のお力 添えをお願いするしだいです。

③国家試験対策

医薬分業体制の進展などにより、ごく近い将来、薬剤師の需要にかげりが見られると予測されていますが、加えて薬科大学の新設ラッシュは各大学間の生き残りをかけた競争に一段と拍車をかけるものと思われます。このような情勢の中で、医療薬学教育を充実させ、責任ある医療の担い手を輩出するためには、何はともあれ薬剤師国家試験の全員合格を目標としなければなりません。そのためには、個々の教員の努力は申すまでもありませんが、対策のための対策に堕する事なく合理的なプログラムが必要と思われます。そのような観点から、今年度、これまでの国家試験対策委員会に加え対策の立案・実施を主導する薬学教育研究室を設置いたしました。今後、この研究室を中心にきめ細かな対策プログラムを策定し、高い合格率を安定して達成して行く計画でおります。

4. これからの問題点

本年の春、学校教育法、薬剤師法を改正する法律案が成立した際に附帯された決議案に、今後、薬学教育界は勿論のこと、薬学に関係する諸機関が一致協力して早急に解決せねばならない課題が示されております。それらを最後に記させていただき、稿を終える事といたします。平成18年度の開始は、ゴールではなくスタートである事は申すまでもありません。恐らくは諸制度が形となって動きだした時、予想もしない問題を生じる事も想像に難くありません。学部教員と校友の皆様方を両輪として、他に誇れる教育体制を仕上げるための様々な工夫を凝らす覚悟でおります。変わらぬご支援をたまわりますよう重ねてお願い申し上げます。

最後に校友の皆様方のますますのご発展を祈念申し上げ ます。

学校教育法改正、衆議院文部科学委員会での付帯決議

- ① 各大学における指導体制の整備、教育・実習施設の確保、特に、長期実習のための指導者、施設の確保に配慮すること。
- ② 第三者評価体制の整備を進める等、医療人としての倫理観が養えるような質の高い教育の維持、向上を図ること。
- ③ 薬剤師の生涯学習の機会を充実するよう配慮すること。
- ④ 修業年限の延長に伴い、経済力の差が進路選択、学業 の成就に影響を与えないよう配慮すること。
- ⑤ 大学、民間研究機関等において、国際競争力を持つ創 薬等の研究開発を担う人材の育成に努めること。

薬剤師法の一部を改正する法律案に対する附帯決議

政府は、安全・安心な医療の担い手にふさわしい質の高い薬剤師を養成するという今回の法改正の趣旨にかんがみ、次の事項について適切な措置を講ずるべきである。

- ① 六年制の薬学教育における長期実務実習の充実を図るため、病院、薬局等の実習受入施設における受入体制を確保するとともに、実務実習の指導に当たる十分な資質を備えた指導薬剤師を早急に養成すること。
- ② 薬剤師国家試験受験資格の経過措置(旧四年制卒業者

- 及び新四年制卒業後修士課程を修了した者)については、 受験者が混乱しないよう、関係方面に対する周知徹底に 努めること。
- ③ 新制度移行前の四年制の薬学教育を履修して薬剤師となった者(既存の薬剤師)についても、近年の医療技術の高度化、医薬品の適正使用の推進等の社会的要請にこたえるため、生涯にわたる卒後教育の一環として実務研修の充実・改善を図ること。
- ④ 医療の担い手としての薬剤師の資質の向上を図るための取組と併せて、患者からの信頼が得られるよう、薬剤師免許の取消し等の行政処分を厳正かつ公正に行うための仕組みについて検討を行うこと。
- ⑤ 地域における医薬品の適正使用を進めるため、面としての医薬分業の推進及び「かかりつけ薬局」の普及を図るとともに、利用者の積極的な活用が図られるよう、情報の提供、啓発等に努めること。
- ⑥ 医療機関等における医薬品に関連した医療事故を防止するため、薬剤師による薬歴管理を通じた服薬指導の充実及び注射薬など病棟における薬剤管理の促進を図る等、医療機関における薬剤師の役割の明確化及びそのための環境整備を進めるとともに、製品情報のコード表示化、データベース化、医療機関等における情報通信技術の活用等の事故防止策の普及を進めること。

パーキンソン病とパーキンソン症候群の臨床

臨床医学研究室 助教授 小 野 真 一

1. はじめに

パーキンソン病(P病)は、慢性緩徐進行性の神経変性疾患で、振戦、無動/寡動(運動緩慢)、筋強剛(筋固縮)(以上を古典的3徴候という)と姿勢反射異常を4大徴候とする。これらに便秘、あぶら顔、起立性低血圧などの自律神経症状、うつ状態や思考緩慢といった精神症候が随伴する。中脳の黒質緻密層のドパミン含有神経細胞、延髄青斑核のノルアドレナリン含有神経細胞の変性脱落に起因する。これらの細胞を中心にレヴィ Lewy小体という細胞内封入体の出現が病理学的特徴である。

特定疾患治療研究事業(いわゆる「難病」)に指定されており、本邦の有病率は80~100と、神経難病の中では多い方である。すなわち、P病は神経疾患を専門としない医師はもとより、薬剤師、看護師といった医療従事者、さらに一般人にも病名自体は良く知られている神経疾患の1つである。しかし皮肉なことに、パーキンソン病の臨床がこれらの人々に正しく理解されているとは言い難い。

11. パーキンソン病とパーキンソン症候群の異同

P病とP症候群は混同して用いられている。この異同は、臨床診断の流れを理解すれば容易に理解可能である。まず、病歴を聞いた上で診察を行う。ここで、4大徴候のうち2つ以上を呈する病態をひとまずP症候群と診断している。このP症候群は、特発性(原因不明)と症候性(或る疾患・病態に起因)に大別される。そこで、今度は症候性か特発性かを鑑別しなければならない。両者は詳細な病歴の聴取(服薬歴は特に重要)と神経所見、補助診断としての画像所見から鑑別が可能である。症候性P症候群を来たす疾患・病態には以下のものがある。なお、症候性P症候群は「難病」の対象にならない。

1) 症候性P症候群

a) 脳血管障害

いわゆる脳血管性P症候群である。たとえ脳血管障害の既往はなくとも、無症候性脳梗塞としてX線CTやMRIで大脳白質に脳血管障害性病変を認める。P病よりも高齢発症で、4大徴候のうち振戦を認めること

は稀である。その一方、仮性球麻痺、片麻痺など脳血管障害に起因する脳局所症状の随伴が、診察により明らかとなる。側脳室前角周囲を中心とした白質病変を有する場合は、小刻み・すり足、姿勢反射異常が前景に出る。より広範な血管障害性白質病変を呈し、高次脳機能障害ないしは痴呆を呈するものは、ビンスワンガー(Binswanger)皮質下白質脳症といわれ、高血圧症患者に多い(図 1)。

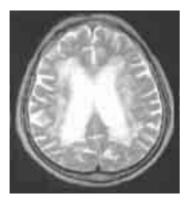


図 1. 脳血管性パーキンソン症候群を呈する患者のMRI (ビンスワンガー皮質下白質脳症: 白質病変が顕著である)

b) 脳炎·脳炎後

von Economo嗜眠性脳炎罹患後の後遺症として報告されたものである。また、日本脳炎など1部の脳炎は大脳基底核を障害し、P症候群を来たすことがある。

c)中毒

特に一酸化炭素とマンガン中毒は、大脳基底核を障害しP症候群を来たす。

d) 脳腫瘍

腫瘍の部位にもよるが、P症候群の原因となりうる。

e)頭部外傷後遺症

上記同様、P症候群の原因になりうる。

f)代謝異常

銅代謝異常であるウイルソン病、副甲状腺機能低下 症などが原因となりうる。

g)薬剤性

薬剤の抗ドパミン作用に起因するものである。詳細 は薬剤性P症候群の項に記載した。

症候性P症候群が否定されて、ここで初めて特発性P症候群の可能性を考える。

2) 特発性

特発性P症候群の原因疾患を表1に示す。

特発性のなかに、P病とP病以外の変性疾患(多系統萎縮症、脊髄小脳変性症、進行性核上性麻痺、皮質基底核変性症など)がある。特発性P症候群で、小脳症状を伴えば多系統萎縮症(特にオリーブ橋小脳萎縮症)や脊髄小脳変性症を、振戦が目立たずレボドパの効果が乏しければ線条体黒質変性症を、自律神経症状が前景であればシャイ・ドレイジャー症候群を、核上性眼球運動障害があれば進行性核上性麻痺を、症状の左右差が著明で大脳皮質徴候があれば皮質基底核変性症を臨床的には疑う。P病とP病以外の

変性疾患の鑑別は、上記神経症状の他、MRIによる脳萎縮の分布、臨床経過から可能だが(図2)、病初期には鑑別困難なことも少なくない。

通常、P病は非家族性(孤発性)である。しかし、近年 複数の遺伝因子と環境因子により発症する多因子疾患と考 えられるようになってきた。発症に関与する個々の遺伝子 の影響が弱く、複数の遺伝子変異の重複と胎生期から発症 に至るまでの環境因子(外的環境因子や加齢、ドパミン含 有神経細胞自体の脆弱性といった内的環境因子)との相互 作用によって発病が決まるわけである。従って、家族集積 性が低く、ほとんどの患者は孤発例として認知されること になる。細胞障害の機序は、古くからのフリーラジカル 説、神経毒素とミトコンドリア呼吸障害説が代表的であ る。前者は、ドパミン含有神経細胞はフリーラジカル源を 内在するという細胞自身の特徴に基づく説で、後者は1methyl-4-phenyl-1,2,3,6-tetrahydropyridine(MPTP)Ø 発見以来高まったものである。MPTP自体は自然界に存在 しないので、外的環境因子の1つとして或る種の殺虫剤や 農薬といった神経毒素を想定する向きがある。

一部($5 \sim 10\%$ 弱)は単一遺伝子異常に起因し、家族性(遺伝性)である。現在まで11種類の遺伝子座が同定され、 α -synuclein、parkin、UCHL1、DJ-1、Nurr1の5つの遺伝子が同定されている。なお、 α -synucleinは、レヴィー小体の構成成分であることが分かっている。

表 1. 特発性 P 症候群を来たす疾患

1. パーキンソン病(P病)

II. P病以外の特発性P症候群 (P病以外の変性疾患)

多系統萎縮症

オリーブ橋小脳萎縮症 線条体黒質変性症 シャイ・ドレイジャー(Shy-Drager)症候群 脊髄小脳変性症(遺伝性、非遺伝性) 進行性核上性麻痺 皮質基底核変性症 びまん性レビー(Lewy)小体病 その他

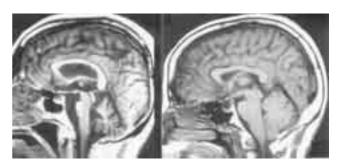


図2. 脊髄小脳変性症(左)とパーキンソン病(右)のMRI 脊髄小脳変性症では、小脳・脳幹の萎縮が著明である

Ⅲ. パーキンソン病の薬物治療

本邦では、モノアミンオキシダーゼB (MAO-B) 阻害 薬の単独投与が保険適応でないため、通常は、レボドパ+ ドパ脱炭酸酵素阻害薬の合剤 (DA/DCI) かドパミン受容 体作動薬(DAアゴニスト)のどちらかを第1選択とする。 DA/DCIは、DAアゴニストよりも効果発現が早いが、血 中半減期が短い。長期(概ね5年)・高用量投与では運動合 併症(ジスキネジアdyskinesia、オンオフon-off現象、ウ エアリングオフwearing off現象) の発現率が高い。DAア ゴニスト単独またはDA/DCIとの併用投与は、DA/DCI投 与量を抑えることができ、DA/DCI単独投与よりも運動合 併症の出現頻度が低いが、精神症状はDAアゴニストの方 が出やすい。DAアゴニストは、in vitroの検討では抗酸 化作用・ドパミン含有神経保護作用が示唆されている。以 上の事実を勘案し、原則的に75歳以上はDA/DCI、70歳以 下はDAアゴニストを第1選択とし、70~75歳の間は生活 年齢を考慮して適宜決める(図3)。

日常生活の障害程度に応じて投薬を開始するが、治療に 際しては、上述の暦年齢だけでなく、1)患者の利き腕、 2) 症状のタイプ (振戦と筋強剛どちらが強いか)、3) 就 労の有無、4)症状が職務に及ぼす影響、5)患者の意向 を充分に考慮する。(DA/DCIは安価だがDAアゴニストは 高価である。「難病」指定を受ければ、患者自身の負担は少 ないとはいえ、薬価経済的観点からの考慮も必要である。) 例えばHoehn-Yahrの重症度(表2)がたとえ I 度でも、 利き腕に症状があり、筋強剛のため職務に支障があれば、 より早期から薬物治療が必要である。70歳以下でもⅢ度 以上ではDA/DCIから開始したほうが良い場合もあるわけ で、その場合DA/DCIは300mg/日以下に抑えるのが良 い。アルツハイマー型痴呆、脳血管性痴呆などの器質的脳 病変を有する場合は、副作用としての精神症状が一層出や すいので、DAアゴニストよりもDA/DCIを使用するのが 良い。すくみ足、起立性低血圧にはノルアドレナリン前駆 物質のドロキシドパが有効である。ジスキネジアに対して はDA/DCIの分服回数を増やしてみる。ウエアリングオ フ・オンアンドオフ現象に対しても同様の方策の他、DAア ゴニストの追加or増量、MAO-B阻害薬の追加などを行う (図4、5a~d)。振戦に対してはトリヘキシフェニジル が有効である。なお、レボドパの効果を減弱させるいくつ かの因子が知られており、服薬指導上留意しておいた方が 良い (表3)。

症候性P症候群では原疾患・病態の治療が優先する。もちろんP病治療薬も症状に応じて処方される。脳血管障害に起因するものでは、脳血管障害の危険因子の管理と治療が重要である。P病以外の特発性P症候群にもP病治療薬(通常レボドパ)が処方されるが、たとえ病初期は有効であっても、効果は限定的である。

IV. 薬剤性パーキンソン症候群

可逆性である。原因薬剤の中止により治癒し得るという 点で、見逃してはならない。原因となり得る薬剤を**表4**に 示す。

ドパミンD₂受容体拮抗作用を有し、かつ抗コリン作用が 弱い抗精神病薬に薬剤性P症候群が多い。フェノチアジン

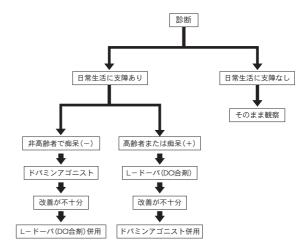


図3. 早期パーキンソン病治療のガイドライン (文献2、p323図1より)

表 2. Hoehn-Yahrの重症度分類

Ⅰ度	症状は片側性
Ⅱ度	症状は両側性
Ⅲ度	姿勢反射異常を認める
IV度	日常生活に介助が必要
Ⅴ度	介助がないと日常生活は送れない

表3. レボドパの効果を減弱させる因子

因 子 具体例

ドパミン受容体遮断薬 薬剤性 P 症候群の項を参照 胃液酸度の低下 ヒスタミンH 2 受容体拮抗薬、

プロトンポンプ阻害薬等の服用

消化管の運動低下 抗コリン薬の服用 高蛋白 高蛋白な食事の摂取

ビタミンB。* ビタミンB。含有製剤の服用

*: レボドパ単剤の場合のみで、DA/DC I の場合は影響がない。

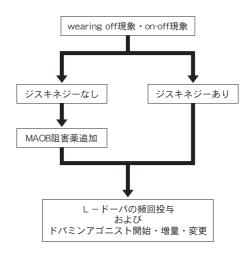
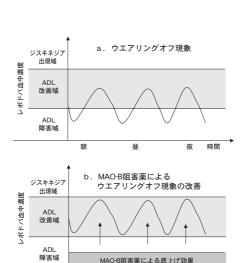
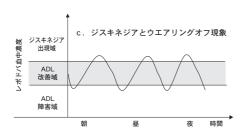


図 4. 進行期(運動合併症を有する)パーキンソン病の治療ガイドライン (文献 2、p 324 図 2 から抜粋)





時間

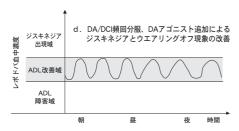


図5a~d. 運動合併症出現時の対応

系でもチオリダジンは、P症候群を来たしにくいとされている。

スルピリドとメトクロプラミドは診療科の枠を超え広く 処方されていること、P症候群の原因薬剤としての認識を 持った医師が少ないことから、これらに起因する薬剤性P 症候群を診る機会が多い。この2剤については、見落とさ れ易いので格別の注意を払う必要がある。

薬剤性 P 症候群には、1)症状が病初期から両側性、2)安静時振戦が目立たない、3)症状発現後の進行経過が早い、4)ロジスキネギジアを伴うことがしばしばある、といった臨床的特徴がある。

薬剤性P症候群は原因薬剤の中止により数週間から数ヶ月で改善する。投薬が必要な場合は、トリヘキシフェニジルがDA/DCIよりも有効である。

V. 精神症状への対応

薬剤性と考えられる精神症状に対しては、原因と考えられるP病治療薬の減量・中止を原則とする。減量・中止は 次項に述べる悪性症候群の発症を危惧し、ゆっくり行う。 現実には、P症候群が増悪するため、P病治療薬の減量・ 中止が困難な例が少なくはない。このような場合には、

表 4. 薬剤性パーキンソン症候群の原因薬剤

定型抗精神病薬

ブチロフェノン系 フェノチアジン系 イミノジベンジル系 ベンズアミド系(スルピリド、チアプリド)

非定型抗精神病薬

リスペリドン、オランザピン、ピモジド

抗うつ薬

三環系抗うつ薬四環系抗うつ薬

胃腸機能改善・制吐薬

メトクロプラミド(ベンズアミド系) シサプリド(ベンズアミド系) ドンペリドン

胃腸機能改善薬 (副交感神経刺激薬)

アクラトニウム

降圧薬

レセルピン α-メチルドパ マニジピン、 アムロジピン ベラパミル ジルチアゼム

抗不整脈薬

アプリンジン

その他

抗癌薬 (フルオロウラシル誘導体) (メトトレキサート) 抗真菌薬 (アムホテリシンB)

- 注1:フルナリジン、シンナリジンも原因薬剤であったが、現在は市場にないので割愛した。

注2:その他の項目の薬剤は広範な脳症を起こし、その1部分症状としてP症候群がみられる。

(前項に記載したように、薬剤性P症候群の原因薬剤の1つではあるが)薬剤性P症候群を起こしにくい、非定型抗精神病薬の使用が推奨される。クロザピン(本邦未発売)、オランザピン、クエチアピンがある。定型抗精神病薬の中では、前項に記した理由からチオリダジンを選択すべきである。

これはP病に限らず、精神症状を呈する痴呆性老人に対しても同様である。

VI. 悪性症候群

最も良く知られている抗精神病薬の副作用である。それだけに、P病治療薬の服薬中でも起こり得るという認識が、精神疾患・神経疾患を専門としない医師には希薄である。特に、症状の進行したP病患者に起こりやすい。悪性症候群の発症に関与する因子を表5に示す。

ウエアリングオフ現象などの運動合併症が存在するということは、レボドパの血中濃度の日内変動幅が大きいことを意味する。これは服薬量の急激な変化によってもたらされる効果と、結果的には同じであることに留意してほしい。さらに、薬剤の直接作用ではなく、身体的衰弱を間接的要因とする場合もある。従って、P病患者に起こり得る最も重篤な有害事象の1つとの認識を持ち、その予防、早期発見・治療に努める必要がある。適切な対応をとらない限り予後は不良である。Levensonらによる診断基準を表6に示す。

原因不明の非感染性の高熱(通常38℃以上)と自律神経症状(頻脈、血圧上昇、発汗、頻呼吸)を伴う筋強剛の急激な増悪を診たら、臨床的に悪性症候群を疑わうべきである。CKの上昇は重要な検査所見である。悪性症候群の治療を表7に示す。

表 5. 悪性症候群の発症に関与する因子

P病治療薬の服薬量の急激な変化

外的要因 自己判断or医師による減量・中止

不規則な服薬・のみ忘れ

内的要因 運動合併症の存在

身体的衰弱

脱水 (特に夏季)

感染症

表 6. 悪性症候群の診断基準 (Levenson)

大症状

1)発熱 2) 第

2) 筋強剛

3) CK*の上昇

小症状

1)頻脈

2) 意識の変容

3) 血圧上昇

4) 発汗

5) 頻呼吸

6) 白血球增多

大症状 3 つ or 大症状 2 つ + 小症状 4 つで確定診断が成される。 CK:クレアチンホスフォキナーゼ creatine phosphokinase

表 7. 悪性症候群の治療

原因薬剤(抗精神病薬等)の中止

(但し、治療中のP病治療薬の中止は行わない) 補液を中心とした全身管理と合併症(感染症)対策 ブロモクリプチン投与

ダントロレン投与

腎不全を併発したら透析

VII. 参考図書と文献

- 1) パーキンソン病治療ハンドブック、近藤智善、作田学、 山本光利 著、医学書院、東京、2001.5
- 2) パーキンソン病治療ガイドライン、日本神経学会 「パーキンソン病治療ガイドライン」作成委員会 編 集、医学書院、東京、2003.8
- 3) パーキンソン病のすべて、「脳の化学」編集委員会編 集、星和書店、東京、2004.2
- 4) Koller WC. How accurately can Parkinson's disease be diagnosed? Neurology 42(suppl 1): 6-16, 1992

小野真一(オノ シンイチ)略歴

【現 職】 日本大学薬学部助教授(臨床医学研究室)

【略 歴】

1985年 日本大学医学部卒

1989年 日本大学大学院医学研究科卒(医学博士) 1994年6月 日本大学板橋病院 神経内科病棟医長 1996年3月 ウエスタン・オンタリオ大学 病理学研究員

1997年8月 済生会向島病院 神経内科医長

1997年11月 日本大学板橋病院 神経内科病棟医長 2001年1月 日本大学練馬光が丘病院 神経内科医長

2001年7月 日本大学医学部 内科学講座(神経内科部門)講師

2001年9月 公立阿伎留病院 神経内科科長を経て

2003年4月 現職

【著書】

脳神経・末梢神経検査マニュアル(共訳) 医学書院 1990年 わかりやすい疾患と処方薬の解説(分担執筆) アークメディア 2002年 医学書院 医学大事典(分担執筆) 医学書院 2003年

【その他】

緊急注意事項

8月中旬頃より会員各位から自宅や勤務先に「在学生が 自主的に発行している新聞」の購読依頼があったが大学が 関与しているのか否かについて薬学部校友会事務局に問 い合わせがありました。日本大学が関与している新聞は「日 本大学新聞」のみです。当該新聞は日本大学、日本大学薬 学部、日本大学校友会および日本大学薬学部校友会とは 一切関わりがありませんのでご承知おき下さい。

日本大学卒後教育講座のご案内

◎第94回 日本大学薬学卒後教育講座

日 時: 平成16年11月11日(木) 18:00~20:00 演題名: 薬の作用機序に係る食べ合わせの危ない食品

講 師:東山田クリニック院長 柳川 明

演者はリュウマチ・膠原病など慢性病の専門臨床医で、 長く患者や薬に係って来られた。「薬が毒に変わる危ない 食べあわせ」実業之日本社 などがある。今回は、飲食物・ 嗜好品・健康食品などと医薬品の相互作用にターゲットを 絞ってご講演いただくことになっています。

◎第95回 日本大学薬学卒後教育講座

日 時:平成17年1月13日(木) 18:00~20:00 演題名:薬局業務にまつわる訴訟とその実際

講 師:弁護士・薬剤師

小林郁夫(理工学部薬学科S45年度卒)

講師は本学卒業後、弁護士になられ、国内でも数少ない 薬剤に関する裁判や訴訟の専門家として活躍されておいで になる。平成15年に一度ご講演いただいた。皆様から是 非もう一度との声が高いので、二度目のご講演をお願いし た。今回は、質問時間を大目に取る予定である。

◎第96回 日本大学薬学卒後教育講座

日 時:平成17年3月10日(木) 18:00~20:00

演題名:保険調剤(開局及び病院薬剤師)の理解のために

講 師:徳島文理大学香川薬学部病院薬学

(前厚生労働省特別医療指導監査官)

教授 日高真二 (理工学部薬学科S59年度卒)

講師は今年9月末まで、保険調剤請求に関る指導に携り、自ら現場で指導して居られた。その経験を踏まえ、病院や調剤薬局における正しい保険調剤請求のためのホットな知識をご講演いただく予定である。

◎受講案内

会

場:日本大学会館 (千代田区九段南4-8-24)

最寄り駅:市ヶ谷駅 JR中央線下車 徒歩2分

東京メトロ 有楽町線・南北線、

都営新宿線下車

A 2 出口 徒歩 0 分 受講申込方法: 当日申込のみ(予約不要)

受講開始時間:17時30分より

参加資格:特になし(出身校等一切不問)

受 講 料 等: 1,000円

受講者には受講証と受講資料を差し上げます。日本薬剤師研修センター研修シー

ル(1単位)を交付いたします。

問い合わせ先

日本大学薬学部庶務課 TEL 047-465-2091

「こんな講師の講演を」「こんな内容の講演を」聴き たい、企画して欲しいなどの意見が有りましたら、是 非ご連絡下さい。

> 薬学卒後教育委員会委員長 教授 伴野和夫 tomono@pha.nihon-u.ac.jp

会合予告

最新情報はホームページ参照

「薬学科5期生同窓会」のご案内

薬学科昭和35年卒業生の同窓会を先生方をお招きし、下記により開催いたします。御多忙とは存じますが。皆々様お誘い合わせの上ご出席いただきますようご案内申し上げます。

日 時:平成16年10月23日(土) 午後17時30分より

会 場:アルカデイア市ヶ谷(私学会館)

千代田区九段北4-2-25 電話03-3261-9921 JR総武線・市ヶ谷駅から徒歩2分 地下鉄有楽町線・市ヶ谷駅A1-1出口から徒歩

地下鉄有楽町線・市ヶ谷駅A1-1出口から徒歩2分 地下鉄新宿線・市ヶ谷駅A4、A2出口から徒歩2分

幹 事:大日方綾子 小倉操子 田中重俊 樋口哲夫

第16回桜薬祭のご案内 母校を訪ねる日

第16回桜薬祭 (薬学部学園祭) が来たる10月30日(土)・31日(日)の両日薬学部校舎で開催されます。

薬学部校友会では、10月30日(土)を「校友の母校を訪ねる日」と定めて当日参加校友に昼食券(500円)を進呈しております。当日は校友会提供の「桜薬クイズ」や学生会員の研究発表も行われておりますので、校友の皆様お誘い合わせの上ご来校ください。多数の参加をお待ちしております。

研究室だより

生物学研究室

(3号館1階311)

記録的な猛暑の夏も終わりを告げ、しのぎやすい季節となってまいりましたが、卒業生の皆様には益々ご活躍のことと思います。

研究室の近況をお知らせいたします。渡邊先生をはじめ、小川先生、草間先生、私須田の4名のスタッフで日々教育研究にまい進しております。さらに、間近に迫ってきた薬学部6年制への対応もあり、先生方は多忙な日々を送られています。変革の時期を迎えている薬学部にとって、卒業生の皆様のお力添えは益々必要となってきますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、本年度の卒業研究生は17名(女性12名、男性5名) が配属されました。8月の末には軽井沢へ卒研旅行に行っ てきました。初日は鬼押出し園に行きましたが、浅間山の 噴火によって造られたという溶岩の景観は、とてもすばら しいものでした。小雨の降るあいにくの天気でしたが、学 生達は終始お喋りをしながらとっても楽しそうでした。そ の夜の宴会や翌日のボーリング大会を通じて、学生達の親 睦も深まったようです。このボーリング大会で圧巻だった のは渡邊先生の巧みなボールさばきでした。133というハ イスコア(全参加者中4番目、女性では2番目)をだし、 学生達を圧倒。まだまだ若いものには負けないということ を身をもって示して下さいました。現在学生達は各自の テーマで研究に励んでいます。総合講義試験や、日程が例 年より早くなった国家試験に向けての勉強にも頑張ってい る様子ですが、全員無事に合格して薬剤師としてのスター トをきってほしいと思います。

最後になりましたが、皆様のご健康とご活躍をお祈り申 し上げます。 (須田 記)



卒 研 旅 行

薬理学研究室

(3号館1階312)

桜薬会会員の皆様におかれましては、各方面でご活躍の こととお慶び申し上げます。当研究室の近況をお知らせ致 します。 まずはスタッフの近況ですが、伊藤芳久教授は昨年度より引き続き学部執行部の学務担当を務めており、今や変革期にある薬学部のなかで活躍されております。石毛久美子講師は、今年度より助教授に昇格し、学生の教育や研究活動、そして大学の業務にとますます精を出されております。荒川基記助手は、日本大学海外派遣研究員として本年6月より一ヶ月間、米国ワシントン州シアトルのワシントン大学とアリゾナ州ツーソンのアリゾナ大学に滞在されました。米国での薬剤師業務や臨床薬学教育の現場に触れてこられ、これからの薬学部での教育に必要な方向を体得されてきました。私・枝川義邦も、10月より一ヶ月間、米国テネシー州ナッシュビルにあるバンダービルト大学へ出張に行かせて戴くことになりました。現地では新しい技術の習得を目指して頑張って参ります。

現在、薬理学研究室には多くの学生と大学院生が在籍しており、毎日賑やかに過ごしております。研究活動の主力としては大学院生が14名(M2が5名、M1が7名、D2(社会人)が2名)と研究生1名が在籍しており、平日は夜遅くまで、また社会人大学院生は週末を返上して研究活動を精力的に行っております。大学院生のゼミでは、論文紹介や実験データの検討会を行っており、人前での発表や質疑応答の仕方を習得してきております。学会等の発表で力を発揮してくれるものと期待しております。また、学部の卒研生は14名で男性9名、女性5名の構成となっております。教室旅行へは、8月2日より一泊二日で河口湖へ行き、みな楽しく親睦を深めて参りました。写真はその時に撮ったものです。9月より本格的に卒業研究も始まりましたので、大学生活の締め括りとして、研究室で過ごす期間をよき思い出とできるように一同頑張っております。

今年度は伊藤教授のもと、スタッフから卒研生まで含め、実に33名の教室員を抱える大所帯となりましたが、これからも充実した日々を送っていきたいと思っております。

末筆となりましたが、皆様のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。 (枝川 記)



微生物学研究室

(3号館1階314)

虫の音が秋を思わせる今日この頃、桜薬会会員の皆様に おかれましては益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。 当研究室の近況をお知らせ致します。

井口先生をはじめとして、小林先生、板垣先生そして私 (元吉) の4名で変わらず研究・教育に励んでおります。

昨年度は卒業研究生15名が無事に卒業していきました。 卒業試験、国家試験と最後の最後までハラハラと致しましたが、現在は持ち前の明るさ、協調性を生かして調剤薬局、 病院、製薬会社など各方面で活躍していることと思います。

さて本年度ですが、荒淳一君が博士前期課程に進学し研究室の一員となりました。独特のキャラクターの持ち主で、マイペースにねばり強く実験を行っております。2年間という限られた時間ですが、実験成果だけでなく学生達の良きリーダーとして色々なことを経験して欲しいと思います。また卒業研究生は17名(男性5名、女性12名)が配属され、八月下旬に研究室旅行としてボーリング大会と屋形船での宴会を行いました。女性の方が多く大人し過ぎるのではと思いましたが、そんな心配は吹き飛んでしまう程の盛り上がりでした。少々圧倒されましたが、研究室内の親睦がいっそう深まったのではないでしょうか。

後期に入り卒業研究や演習講義も本格化して参りましたが、積極的に取り組んで目標達成への一プロセスなど何か一つでも学んでくれればと思います。その後も国家試験に向けてあわただしい日々が続きますが、諦めることなく頑張り抜いて欲しいと思います。そして来春には全員が揃って無事に吉報を手にすることが出来ればと切に願います。

H18年度より薬学教育6年制がいよいよ現実のものとなります。約半年間行われます実務実習においては現場で実務に携わっていらっしゃる諸先輩方のお力添えをいただくことになるかと思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

末筆ではございますが、会員の皆様のご健康とご活躍を 心よりお祈り申し上げます。 (元吉 記)



機能形態学研究室

(3号館1階315)

桜薬会会員の皆様におかれましては各方面で御活躍のこととお慶び申し上げます。機能形態学研究室の近況をお知らせ致します。

昨年度に配属された四年生(実験組11名、演習組4名) 15名は全員無事に卒業試験に合格し、3月に薬学部を巣立っていきました。卒業式では、西谷周子さんが生物薬学科の代表として、卒業証書を授与されました。社会人として病院や調剤薬局で働いている人、残念ながら国家試験に合格できず、来年に向けて勉強に励んでいる人、皆さんの今後のご活躍に期待しております。また、研究生として研究や後輩の指導に頑張っていた大内希さんは見事論文博士を取得し、現在城西国際大学薬学部の助手として教育・研究活動に従事しています。今後一層の飛躍を期待します。

平成16年度も本研究室は教員4名(草間教授、木澤助教 授、齋藤助手、益子) に博士後期課程1年鈴木郁子さん、 博士前期課程2年古谷美野里さんの2名の大学院生を加 え、教育・研究活動に日夜励んでいます。さらに今年度は 17名 (実験組13名、演習組4名)の個性溢れる四年生が配 属され、早速4月から実験組は卒業研究の実験が始まり、 研究室が賑やかになっています。7月初めには河口湖へ1 泊2日で研究室旅行に行きました。河口湖での遊覧船や野 ざる公園の見学、またロープウェイでかちかち山にも登り ました。日本昔話でお馴染みのかちかち山です。山頂には 太宰治が書いた'かちかち山'のお話が掲示されていたの ですが、とても深く怖い内容でした。子供の頃に聞いてい たら嫌いになっていたと思います。興味のある方は是非読 んでみてください。夜のバーベキューでは大いに楽しみま した。木澤、齋藤両先生の調理の腕前はなかなかのもので すよ。教員、実験組、演習組を問わず、研究室旅行で親睦 を深めたようで、残りの研究室生活もチームワークで乗り 切ってくれそうです。さらに今年は5人の大学院進学希望 者がいるので、今後大いに研究室を盛り上げてくれること でしょう。

薬学教育の年限延長を控え、薬学をとりまく環境も非常に厳しい状況ではありますが、校友諸兄姉におかれましては今後とも御指導、御鞭撻の程宜しくお願い致します。最後になりましたが、会員の皆様の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。 (益子 記)



生化学研究室

(3号館2階321)

涼しい夏を過ごした昨年とは打って変わり、今年はすでに異常とも言える猛烈な暑さを記録しています。これからも暑い日々が続くことを覚悟しなくてはいけないようでありますが、桜薬会の会員の皆様には益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

生化学研究室の近況についてお知らせいたします。スタッフに変化がありました。4月より、小池先生が薬学教育研究室へ教授として転出されました。それと同時にこの3月に本学大学院薬学研究科博士過程を修了した大橋祥世さんが助手として採用になりました。そして、6月をもって助手の舩越智子さんが退職されました(理研へ)。従って、現在のスタッフは安西先生、大橋先生、私の3名となっております。

修士過程の学生は2名(荒木さん、高橋君)が巣立ち、新たに3名(鈴木君、高中さん、三輪さん)が入学したのでM2の樋口君と合わせて4名が、日々是実験の生活を送っております。

安西先生は、学部長2年目の年で、薬学部6年制へ向けてさらに大変な時期でもあり、益々多忙を極めているようです。私達も忙しい毎日を送っております。

今年度の卒研生は16名 (男子1名、女子15名)ですが、病院・薬局実習や前期試験、オープンキャンパスなどで日程が合わず、コンパは何度か行われたものの、どうやら卒研旅行へ行くのは難しい状況のようで、それに代わる何かを秋に計画しているようです。 9月からまた顔を合わせ、卒業研究と国家試験に向けた勉強の日々を送ることになるでしょう。薬学部6年制にからみ、国家試験の傾向にも変化が現われ大変だと思いますが、大学生活最後の半年を充実したものにして頂きたいと願っています。そして、晴れて卒業し、社会人となるわけですが、厳しい状況の続く就職や、その後の社会生活におきましても諸先輩方の御協力、御指導を頂きたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、会員の皆様の御健康と御活躍をお 祈り申し上げます。 (小林 記)

衛生化学研究室

(3号館2階324)

今年の夏は、連続40日に及ぶ真夏日と初夏からの台風上陸など例年にない気候に見舞われた中で、校友会員の皆様には益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。

衛生化学研究室は、3月に16名の卒業研究生、4名の大学院博士前期(修士)課程修了生を社会へ送り出し、4月から新たに17名の卒研生と大学院生3名を迎え入れました。現在、大学院生は、博士後期課程の3年から1年まで各1名と博士前期課程2年1名、1年2名が在籍し、日夜実験研究に励むと共に、互いに刺激しあいながら切磋琢磨しております。榛葉繁紀専任講師を中心に展開している研究課題の成果として、昨年9月に北大で開催された「国際時間生物学シンポジウム」で発表した体内時計を司る遺伝子の一つであるBMAL1と肥満との係わりが、トピックスとしてマスコミに取り上げられ新聞、テレビで話題になったこ

とをご存知の方もいらっしゃることと思います。 榛葉講師は、3月にもカナダ・バンフで行われた国際シンポジウムに参加・発表し、研究面で着実な成果を挙げています。

昨年の卒研旅行は、10月末に午前9時池袋集合、午後9時池袋解散というハードスケジュールで長瀞へ行き、ラフティングを体験してからバーベキューを行って大いに親睦を深めることができました。今年の卒研旅行も10月開催をめざして卒研生が計画中です。

また、衛生化学研究室の前教授で本学名誉教授であられる澤村良二先生には、本年春の叙勲に際し、「瑞宝中授章」を受章されました。その祝賀会につきましては、本会報に報告させていただきました。

薬学部6年制は、平成18年4月から実施が決定し、6カ月の実務実習が義務化されることから、現在教職員一丸となってその対応に奔走しています。不足する講義室、実務実習に入るための事前実習用モデル薬局などの建築準備が、学部長を中心に行われています。しかしながら、現教職員の努力だけでは実現困難な問題も多くあり、諸先輩の皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。また、現役学生の就職に際しましても、皆様の一層のお力添えをいただけますよう、重ねてお願い申し上げます。 (手塚 記)



環境衛生学研究室

(3号館2階325)

例年に比べ酷暑の続いた夏も終わり、ようやく過ごしや すい季節となりました。桜薬会会員の皆様におかれまして は、各方面においてご活躍のこととお慶び申し上げます。

研究室の一部編成替えにより、平成16年4月から、山中健三先生、溝井睦美先生および加藤孝一は臨床生化学研究室より新設の環境衛生学研究室に移動することになりました。研究室は変わりましたが、前年同様、スタッフ3人でより一層の研究と教育の向上に励んでいます。

当研究室では、大学院生2名(博士課程3年、修士課程2年の各1名)、卒業研究生8名(男性2名、女性6名)が勉学をともにしています。平成14年10月より中国から留学している安艶(アン・ヤン)さんは今年度の博士号取得に向け、また、修士2年生の加藤真由美さんは課程修了に向け研究活動に没頭しています。一方、卒研生らは卒業研究、病院実務実習、就職活動等の間も有効に時間を使い卒業試験の勉強をしています。これらの努力が彼らの今後

の躍進に繋がることを期待します。

卒研生の大部分は病院など医療機関への就職を希望していますが、近年の就職事情はますます厳しく、希望を成就できないのが現状です。就職に関しまして、諸先輩方のお力添えを頂きたくお願い申し上げます。

末筆乍ら、会員の皆様のご健康と益々のご活躍を祈念い たします。 (加藤 記)

臨床医学研究室

(6号館4階645)

例年にない記録的な暑さが続いた夏も終わり、ようやく 過ごしやすい季節となりました。桜薬会会員の皆様におか れましては、各方面において益々のご活躍のこととお慶び 申し上げます。

本年度より研究室名が「(旧称)臨床薬学研究室」から「臨床医学研究室」と変更になりました。新設されたばかりの研究室とは言え、研究室名を5年間使用してきたため寂しい気も致します。研究室におきましては、博士前期課程2年(香川茂紀君、新島梨恵さん、宮本智子さん)と医療薬学社会人コース(同学板橋病院・大塚進さん、南総病院・門脇康通さん)の他に、今年から博士前期課程1年(岩石季里子さん)と研究生(同学医学部博士課程2年・大幸英至さん)と研究生(同学医学部博士課程2年・大幸英至さん)2名が当研究室に所属し、研究を行っております。また昨年博士前期課程2年でした伊藤リエさん(帝京大学附属病院)、山口祐之君(グレラン製薬(株))、吉野名穂子さん(国立がんセンター)の3名は無事卒業・就職し、8名いました卒研生も全員薬剤師国家試験に合格し、社会(進学1名、病院6名、企業1名)で活躍しております。

さて、本年度の卒業研究生は15名(男子8名、女子7名) 配属となり、7月上旬に北習志野の近隣公園野球場におきまして、研究室員総出でソフトボール大会を開催しました。また終了後には顔合わせ会を兼ねた親睦会を行い、教員、院生、卒研生共々互いに親睦を深めることが出来たと思います。

しかし、17年の薬剤師国家試験は3月12日・13日に施行されることになり、今までより約半月日程が早くなりました。そのため9月から卒業研究が本格的に開始されても上達した頃には終了し、卒業論文を作成し、卒業試験・国家試験の勉強に励まなくてはなりません。そのため今まで以上に大変に忙しくなると思いますが、来春には全員そろって卒業をして、国家試験に合格できることを、願っております。

今年度も就職状況が厳しいものとなっております。諸先 輩方のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

末尾ではございますが、桜薬会会員の皆様の御健康とより 一層のご活躍をお祈り申しあげます。 (浅見 記)

健康・スポーツ科学研究室 (6号館1階616)

記録的な猛暑も和らぎ、初秋の風が日一日とさわやかさを感じさせる今日この頃となりました。 桜葉会会員の皆様におかれましては、各方面にて益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

当研究室の近況をお知らせします。

今年4月より保健体育学研究室の名称変更がありました。新名称は"健康・スポーツ科学研究室"です。また、3年間副手として勤務しました川田浩之さんが本年3月31日を以って退職され、郷里の鹿児島に戻って、鹿屋中央高校で教鞭をとっております。4月1日からは副手として私、西川絵梨子が着任させて頂きました。私は文理学部を本年3月に卒業したばかりのフレッシュウーマンです。大学時代にはバレーボール部に所属し、選手として練習に励む傍ら部の運営や選手の管理といったマネージャー業も同時にこなしておりましたので、この経験を教育面、研究面に何とか生かしていけたらと思っております。

4月から初めて経験しました授業の指導に困惑し、授業の進行が思うようにできませんでしたが、当研究室の松原先生を始め理工学部、生産工学部などの多くの先生方にご指導を頂き前期の授業を無事に行うことが出来ました。これから秋には体育関連の学会が沢山ありますが、私の専門分野は体育方法論です。各種スポーツの指導方法等に関する研究をすすめて行く予定です。まだまだ発展途上にあり未熟な点が多い私でございますが、持ち前の明るさと粘り強さを駆使し、教育と研究に頑張ってまいりたいと思います。

現在、松原茂助教授と私副手、西川絵梨子の2名でまもなく始まります後期授業と学会のシーズンを迎えて、その準備に多忙な日々を過ごしておりますが、同窓生の皆様におかれましては今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康とご活躍をお 祈り申し上げます。 (西川 記)

平成16年度より新設された研究室を御紹介します。 (事業委員会)

セルフメディケーション研究室

(6号館4階649)



本研究室は、本年4月に寄付講座「一般用医薬品学」及び「植物療法学」を継承するために発足しました。現在は、私安川 憲(18期生薬学研究室)一人ですが、今後スタッフの充足、卒業研究生、大学院院生を受け入れることになります。本年10月1日より韓国FDAの金 惠洙博士

が、研究員として一年間在籍し「医薬品と生薬・食品の相 互作用に関する研究」を始めています。

自己責任、自己管理等、個人の責任が問われる世の中にあって、健康管理をアドバイス出来る薬剤師の教育を主題と考えています。長年、生薬学研究室で培って参りました経験を生かし、食品と薬を使い生活習慣病を如何に防ぐかを研究テーマとしていきます。

昨年度は、厚生労働省の「一般用医薬品としての生薬製剤(西洋ハーブを含む)の審査のあり方に関する検討会」委員、「医薬品のうち安全上特に問題のないものの選定に関する検討会」ワーキンググループに参加し、行政のお手伝いを致しました。今年度は、日本薬剤師会の「薬剤師業

務に関する特別委員会」臨時委員をお引き受け致しました。本学では、6月26日に付属山形高校公開講座で「セルフメディケーションと薬剤師」、8月20日に日本大学付属高等学校等教員夏季研修会で「薬と食品」の講演を行い、9月21日から10月19日までの毎週火曜日の夕刻、日本大学生涯学習センターの公開講座として、「薬と食品と健康管理」で5回の講演会をコーディネートしました。薬剤師の将来像を考え、多種の情報をWeb上等で発信していく所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

末筆ながら、卒業生の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。 (安川 記)

薬学教育研究室

(5号館2階524)

薬学教育研究室は平成16年4月より開設された新しい研究室で、化学系を高畠亨教授が、生物系を私小池が受け持っております。講義科目はは基礎生物学(1年前期、必修科目、1単位、平成16年度開講)で高等学校のリメディアル教育(大学補習授業)を担当しています。薬剤



師を目指す学生が高校で「生物」を履修したか否かは大学での教育効果に大きな差を生すると考えられます。また、少子化や受験生の減少による入学者の質のばらつきが将来にわたって見込まれることからもリメディアル教育は重要であります。こういった点から高校学習新指導要領(平成15年施行)に基づき生物未履修の学生に大学補習を行い、短期に生命科学の基礎知識や思考方法を促成し、大学教程科目の生物学および生物学実習への導入を容易にすることを目的に開講されました。当研究室のもう1つの重要な役割は薬剤師国家試験対策です。千葉県は本年度、新設薬系

大学が3校開校するなど入学定員が倍増し、本学を取り巻く状勢は厳しいものとなってきています。よりよい入学志願者を確保するためには高い国家試験合格率の維持が不可欠なものとなっております。そのためにも成績不良者の学習を支援し、基礎力のアップをサポートしてゆきたいと考えております。 (小池 記)



薬学教育研究室は平成16年4月に設置された新しい研究室です。薬学部6年制を迎えた今、薬学教育が大きく変わろうとしています。日本大学薬学部もそれに対応すべく、理科(化学、生物学)のリメディアル教育や国家試験対策の強化をしています。当研究室も教育方法の効率

化、視覚化、改善に関する研究や教材の開発を通じて、elearningによる双方向型教育支援システムの構築やITによる授業技術改善などを推進して行き、本学の発展に寄与したいと考えています。

研究課題としては以下のテーマを行います。

- 1) 化学系薬学教育に関する調査、開発研究
 - 1. 教育、研究用教材の開発に関する研究
 - 2. 有機反応機構のシミュレーション開発及び教育的効果に関する研究
 - 3. 分子モデリング開発及び教育的効果に関する研究
 - 4. 化学系教科書の調査及び教育的効果に関する研究
- 2) 薬学教育におけるカウンセリング方法の改善に関する調査研究
- 3) 少人数グループ教育法の改善に関する調査研究 今後とも皆様方のご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い 申し上げます。 (高畠 記)

桜の木の下で

山岳OB会開催



平成16年5月29日、30日みちのく仙台秋保温泉で山岳OB会を開催しました。

開催を楽しみにされていた山岳会の顧問でした中村 泉先生は都合で欠席されましたが、山内先生と宮尾先生がお元気に参加されました。参加人数は7期生~12期生の17名と計19名の参加がありました。会が始まれば一瞬にして昔の学生時代に戻り、話しは夜更けまで尽きることがありません。『同じ釜の飯』の良さが存分に発揮され、楽しい宴会、二次会、三次会と続きました。

今後は頻回に開催する事、又卒業年次を広げる事 等決め、次回は高橋会員 (7期) が幹事で開催する こととなりました。

(斯波公次郎 記)

澤村良二先生叙勲祝賀会



本学名誉教授で元薬学部長の澤村良二先生におかれましては、平成16年4月29日に公表された春の叙勲において、永年に亘る薬学教育および研究ならびに社会活動への貢献が認められて、「瑞宝中授章」受章の栄に浴されました。

この受章を祝して、平成16年6月20日にセンチュリーハイアット東京において、先生ご夫妻をお迎えして祝賀会を開催したくご案内申し上げましたところ、157名の方々

のご出席をいただき、盛大な会を開くことができました。祝賀会は、はじめに発起人を代表して衛生化学研究室教授・手塚雅勝より挨拶と受章報告が行われ、次いで安西偕二郎薬学部長、小山隆日本大学名誉教授、福田英臣東京大学名誉教授・元本学部教授の各先生方からご祝辞をいただきました。次に澤村良二先生が皆様に感謝の気持ちを込めた謝辞を述べられました。引き続いて山内盛薬学部校友会長のご発声により乾杯が行われて、懇談に入りました。先生は、ワイングラスを携えてできるだけ多くのご出席の皆様とお話しするため、会場内を精力的に動きをは、ワイングラスを携えてできるだけ多くのご出席の皆様とお話しするため、会場内を精力的に動き回られ、時間の経つのを惜しむかのように過ごされていました。この会には、先生のご親族もお孫さんを含めてご出席くださいました。予定の時間を過ぎたところで、門下生代表から記念品と花束が先生ご

夫妻に贈呈され、祝賀会はお開きとなりました。先生ご夫妻は、会場出口にお立ちになり出席者一人一人にお礼のお言葉と先生が用意された記念品をお渡しになり、散会となりました。本会がたいへん明るく和やかな雰囲気の中で進行し、あちらこちらに歓談の輪が絶えることなくできていたことに感謝申し上げます。

また、当日ご出席いただけなかった 189名の方々からもお祝いの意を込め た記念品代をいただきました。祝賀会 のご案内は、澤村良二先生のいわゆる 「カッパ会」会員と平成7年に退職さ れるまでの間に衛生化学研究室を卒業 された校友の方々に差し上げました

が、研究室関係のみならず多くの校友の皆々様からお祝い をいただきました上に薬学部校友会からもお祝い金をいた だきましたことに対して、発起人一同心からお礼を申し上 げます。

末筆ながら、澤村先生ご夫妻の益々のご健康と末永いご 発展をお祈りして祝賀会のご報告とさせていただきます。

(文責 手塚雅勝)



6期クラス会有志で温泉旅行

6月19日(土)熱海へ一泊旅行に行ってきました。

平成13年に開いた卒業40周年のクラス会の折、出席者 ヘアンケートを実施しましたが、この中でできれば小規模 でよいからクラス会を毎年開くこと、希望者を募り一泊程 度の旅行会を企画してほしいとの意見が多く寄せられてい ました。

クラス会は平成14、15年と日比谷のうすけぼで年末に 開き、今年も11月13日(土)例年通り開くことにしていま す。希望が多かった旅行会はなかなか実施できずにいまし たが、幹事代表の前田君より今年こそ旅行会を企画しよう と提案があり、熱海のニューフジヤホテルへ出かけること とし、今年はじめ主としてクラス会に参加した方々へ案内 を出し参加者を募りました。

当日参加者は10名で、現地集合としましたが希望者は途中真鶴で下り、岬にある料理屋で生き作りを食べることになり、7名が参加することになりました。

19日は梅雨時ではありましたが快晴で、真鶴組みは東京駅9番線ホームグリーン車前9時集合。日照りが強い中ホームへ上がっていくとすでに全員、といっても東京からは前田、高野、高橋(頼)、松島の4名、乗車後は早速ビールで乾杯、途中大船から吉村、長滝の2名、小田原から五十嵐さんが乗車して総勢7名が真鶴へ向かいました。



真鶴では磯料理が食べられると食事の場所を予約してくれた五十嵐さんより聞いて皆大いに盛り上がって磯料理のうに清という海鮮割烹に入りました。さすが真鶴岬だけあって海の岩場に突き出た部屋に案内され、青い空と岩場の海を見ながらの食事は参加者全員が食べきれないほどのおいしい料理と楽しい会話で大満足でした。前田君なんかこんな厚いタイの刺身は生まれて初めてと感激していましたが参加者全員が同じ気持ちだったと思います。

食後海辺に出て岩場で遊びましたが、65歳過ぎた男女が

まるでひととき学生時代にかえった気分になり、日ごろのストレスが解消されたのではと思いまた。

夕方急用で九州福岡へ発つ長滝さんと真鶴駅で別れ、熱海へ向かい、現地参加の山崎、福田、羽田の3名とニューフジヤホテルで合流し、夕方の熱海の町を散策しましたが、つぶれたホテルもあり、ひところの賑わいは感じられませんでした。熱海では一流と称しているニューフジヤホテルも土曜日なのに閑散としており、お陰で露天風呂も大浴場も人が少なくゆっくり入ることができ、気分は最高でした。

夕食後部屋に戻り買い込んだビールやブランデーを飲みながらお互い近況や学生時代の思いで話に花を咲かせ楽しいひと時をつくりました。ハプニングとしては23時ごろふと気がつくと前田君が部屋におらず、風呂でひっくり返っているのではないかとなり、全員で男湯女湯も含め6つある風呂場を探し回りましたが、当人は疲れたので韓国マッサージを受けに行ってきたと戻ってきたときは酔いもさめ、皆がっくりしてしまいました。

今回の旅行は少ない人数でしたが、初めての旅行会2日間を楽しく過ごすことができ、今後も続けられればよいと思いました。今回参加できなかった方も次のときは是非参加していただければと思います。

(執筆 松島)

高橋捷泰氏文部科学大臣表彰受賞祝賀会



平成16年7月4日(日)杉並会館において高橋捷泰氏(10期)の文部科学大臣表彰受賞祝賀会が薬学部校友会山内盛会長、高木茂夫氏(2期)はじめ本学校友、薬剤師会関係者、ご友人の方々など90名のご出席を戴き、古澤寿夫氏(28期)の司会により、盛大に開催された。

高橋捷泰氏は学校薬剤師として33年の長きに亘り学校環境衛生の改善に努力され、また東京都学校薬剤師会杉並支部長として14年間、組織の長として会の運営、向上に努力され、またホルムアルデヒドによるシックハウス症候群の研究発表、災害時における緊急医薬品・器具等の管理に関する研究発表などの学校保健功労により、平成16年4月24日に開催された、学校薬剤師制度50周年記念式典において、文部

科学大臣表彰を受賞されました。

初めに発起人代表の杉並区薬剤師会石井 明会長より挨拶があり、高橋氏の略歴・功績紹介、また東京都薬剤師会田中俊昭会長祝辞、杉並区教育委員会よりの祝辞の後、氏に記念品贈呈、同期の村上良子さんより花束贈呈などが行われ、高橋氏からまだまだ若いのでこれからも頑張りますとの謝辞の後、祝宴が催された。

祝宴には高橋氏が長年趣味としている落語(芸名:高円寺亭びたみん)の お仲間によるパフォーマンスなどがに ぎやかに行われ、大いに盛り上がり、 笑い拍手の内に終了した。

(10期 小林郁夫 記)



29期生 卒後20周年記念同窓会



平成16年7月18日御茶ノ水の東京ガーデンパレスにて卒業生58人に8名の先生方をお迎えし、卒業後20周年を記念する同窓会を開催しました。私たち幹事は前回の同窓会で幹事任命をいただき、今回の準備を進めました。予想に反して連絡がつかない方も半数を超え、改めて20年の年月を痛感いたしました。大変でしたが、連絡がついた方に伝言ゲームのように連絡先不明の友人に連絡を取るという作業をするにつれ、連絡がついた友人、つかなかった友人の顔や当時の記憶を呼び起こし、皆に会える期待に胸を膨らませる楽しい作業となりました。当日は、受付を13:30

開始早々、一人、また一人と友人が 続々と集まってくれました。関東、東 海の方が多数参加されましたが、遠く は、山形から沖縄までほぼ日本全国か らの参加をいただきました。お決まり の文句ですが、全く20年前と変わらな い友人?かなり我々世代に順応して しっかり年輪を重ね、すっかり様変わ りした友人などさまざまな懐かしい友 人が一堂に会しました。

幹事代表のあいさつの後、遠方から 出席いただいた友人に挨拶と乾杯をし てもらい、同窓会がスタートいたしま した。幹事もスタート後は、懐かしい 友人と話を交わし、一緒に楽しい時間 を過ごしました。また、35℃を越える 炎天下の中、卒後20周年に当たり開催 を案内させていただいた先生方から、

澤村先生、長谷川先生、中村先生、山内先生、徳竹先生、宮尾先生、木村先生、青木先生もご参加いただきました。 澤村先生からご挨拶を、山内先生に最近の薬学教育制度ならびに桜薬会の現状を、青木先生には薬学部の現況をご紹介いただきました。その他ご出席いただいた先生方とも会場内ではお話をさせていただき、20年前と変わらず健在な先生方の闊達なお話しぶりに友人共々楽しい時間を過ごしました。

幹事一同(文責 川島)

7期生同窓会報告



平成16年8月8日(日)12:00、東京駅八重洲口・大丸デパート11F・ルビーホールに於いて、昭和37年卒業の7期生44名が集い、7年ぶりに同窓会が開催されました。はじめに来賓の山内盛桜薬会会長より温かいご支援のお言葉を

いただき、変わり行く大学の 近況に耳を傾けながら、出席 者全員が42年の時の流れを感 じつつ、我が身の変遷を思い 巡らす一時となりました。次 いで、深谷仁恵さんの乾杯の 音頭とともに、会場は懐かし さと、再会の喜びで明るい歓 声に包まれました。会の半ば では、連続真夏日という新記 録樹立中の東京に福岡、神 戸、大阪、名古屋、豊田、長 野、福島から駆けつけていた だいた方々、および司会の今 井康雄氏に指名された方々に 近況報告をいただきました。 さすがに卒後42年間にわた

る荒波を乗り越えて来られた皆さんの人生に取り組む姿勢は前向で、お互いに大いに元気を戴き合うことができました。尽きることのない会話は、東京駅構内のレストラン「赤レンガ」での二次会に引き継がれ、36名の方が参加さ

れました。平均年齢65歳になったと言いましても、まだまだこれからです。今後とも肉体的にも精神的にも元気人間としてあり続けることが我々の大きな課題です。そこで、田中孝治氏から"元気を貰い合う機会をもっと増やそう"と、2年毎の提案がなされました。さらに、山内桜薬会会長からも"少人数でもよいから出来れば毎年繋げていくことが望ましい"との貴重なアドバイスをいただきました。このテーマについては有志で速やかに検討していただき、出来るだけ早い時期に次回のご案内ができることを願っております。なお、今回は校友会名簿に従って139名の方々にご案内を差し上げましたが、下記の方々は住所不明のた

め連絡が取れませんでした。ご消息をご存知の方は、桜薬 会事務局までご一報いただければ幸いです。

浅野(小澤) 法子、足立輿成、市川乃武子、上原(宮川) 圭子、占部正俊、大野(飯島) 康江、尾上智文、菊池 (関) 道子、工藤節夫、倉持総太郎、小嶋(長沢) 雅子、 高橋(相馬) 洸、篁佳代、滝田(山崎) 雅子、玉井俊一、 福井道夫、福田(岩瀬) 矩子、星川(曽我部) ノブ子、 堀 光雄、安田仁英、横道藤人(敬称略)

(文責 藤原充雄)

第33期生同期会のご報告



8月22日(日)正午より、東京駅近くのルビーホールにおいて、卒業後はじめての同期会を開催しました。40名ほどの参加者でしたが、遠路はるばる新潟や青森から来てくださった方もおり、楽しく和やかにとり行なうことができました。長いブランクがあったせいか、はじめは皆さん少し緊張気味(?)でしたが、ひとりずつ自己紹介および近況

報告をしていただき、顔と名前が一致 しはじめてからはいよいよ大学時代の 記憶がよみがえり、あちこちで爆笑の 渦が巻き起こっていました。その時の 笑顔はもう、しっかり大学生の頃の笑 顔に戻っていたような気がします。 16年の月日を振り返るには、2時間と いう時間はあまりに短すぎたようでほ とんどの人がそのまま二次会に流れ、 そこでさらに盛り上がりをみせながら 夜9時過ぎに別れを惜しみつつ解散し ました。それでも話尽きぬ人たちは、 翌日の仕事のことなど全く気にせず、 意気軒昂に次の場所へと移っていった ようです。本当にあっと言う間でした が、久しぶりに会う友だちと過ごした

ひとときは、とても感慨深い時間であったのではないでしょうか。年を忘れて再会を喜び合える同期会を、お互いの顔を覚えているうちにまた、行ないたいものです。最後になりましたが、桜薬会には、ラベル作成など大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

(内山武人 記)

(社)埼玉県薬剤師会 薬剤師バンクのお知らせ

埼玉県薬剤師会では、薬剤師無料職業紹介所(薬剤師バンク)を開設しております。転職・再就職にかかわらず、 埼玉県内に勤務希望の方、また、薬剤師不足に悩んでおられる求人の方もどうぞお気軽にご利用下さい。

登録受付日:月~金曜日(祝日・年末年始を除く)

来所受付時間:午前9時30分~11時30分

午後1時00分~4時00分

厚生労働大臣許可 11-ム-030002

社団法人 埼玉県薬剤師会

薬剤師無料職業紹介所(通称:薬剤師バンク)

₹331-8631

埼玉県さいたま市北区土呂町1丁目50番地4 TEL (048) 653-5261

FAX (048) 652-6060

ホームページアドレス http://www.saiyaku.or.jp

e-mail bank@saiyaku.or.jp

務報

学内委員会 財務委員会

IT委員会

平成16年度校友会総会報告

平成16年度校友会通常総会は平成16年6月19日(土)午 後1時30分から薬学部512教室で会員60名が参加し、名誉 会長安西偕二郎薬学部長を迎えて開催した。山内 盛会長 の挨拶、安西名誉会長の挨拶の後、会則により山内会長を 議長に選出した。第1号議案(平成15年度庶務報告、事業 報告、決算報告ならびに監査報告)について、審議し、可 決承認された。第2号議案(平成16年度事業計画案ならび に予算案) および第3号議案役員承認については、原案と おり承認された。引き続いて懇親会が学生食堂で開催され た。懇親会には、日本大学副総長佐々木惠彦先生をはじめ 校友会本部事務局事務長宗玄清蔵先生、同僚学部校友会会 長など8名ならびに母校教職員多数を迎えて開かれた。定 年で退職された恩師(藤本康雄先生、後藤博子先生;当日 欠席) に山内会長より記念品が贈呈された。校友会前会長 原田貞亮氏(1期)の音頭で乾杯し、恒例の福引も行われ、 次年度の再会を楽しみに散会した。

役員 (総会承認)

新任(任期:平成16年度まで) ◎印 常任幹事

49期生(平成16年3月卒)

◎石井範正、加藤祐子、蛭田剛俊

平成16年度 第1回 運営委員会報告

日 時: 平成16年5月14日(金) 18:00~20:30 場 所:日本大学会館(本部)2F 204号室

出席者:山内 盛(会長、4期)、小林郁夫(副会長 兼 財 務委員会委員長、10期)、高橋繁治(副会長 兼 学 内委員会委員長、13期)、原田貞亮(常任幹事兼 日本大学校友会監事、1期)、前田敏晴(常任幹事 兼 日本大学校友会役員、6期)青木正忠(財務委 員会副委員長、学内8期)、渡邊和子(副会長兼 総務委員会委員長、学内9期)、小清水敏昌(副 会長 兼 事業委員会委員長、12期)、内倉和雄(副 会長 兼 I T委員会委員長、学内14期)、北中 進 (学内委員会副委員長、学内17期)、伴野和夫(事 業委員会副委員長、学内19期)、杉森万千日兒(総 務委員会副委員長、21期)、梅沢芳史(IT委員会 副委員長、25期)、本橋重康(副会長 兼 事務局担 当、学内21期)、立川真理子(事務局担当副委員長、 学内20期)、以上15名

報告

1. 桜薬会会報について

桜薬会会報40号はA4版に変更し、平成16年4月25 日に発行したとの報告があった。

2. 入会記念講演会について5月15日(土)に開催の講演会

のプログラムについて報告があった。

企業における薬剤師活躍の場

財団法人 医薬情報担当者教育センター

小久保光昭(9期)

活躍が期待される行政薬剤師

東京都健康安全研究センター広域監視部薬事監視指導課 下村寿一(17期)

信頼される薬剤師を目指して

順天堂大学附属浦安病院薬剤部 成田久美(38期)

- 3. 工科系校友会連絡会・支部長会・懇親会について 幹事会が4月7日(水)に開催され、平成16年度工科系 校友会連絡会・支部長会・懇親会は生産工学部で8月28 日(土)に開催される(当番: 生産工学部校友会)との報告が あった。出席者は各学部10名以内であるので、運営委員 会委員に連絡します。
- 4. 医療系同窓・校友学術講演会について

9月25日(土)に開催される第3回医療系同窓・校友学 術講演会への薬学部校友会からの講師は岩瀬 廣 氏 (11期)に決定したとの報告があった。

講演題名「Walking時代のアミノ酸・ビタミンの活用法」 座 長 小清水 敏昌 氏

5. その他

会長より本部校友会の会長は田中英寿副会長が代行を 務めること、および箱根駅伝寄付金について報告があっ た。寄付者名は会報に掲載された。

- 1. 平成16年度日本大学薬学部校友会総会資料について 各委員長、副委員長より説明があり、一部修正のうえ 承認された。
- 2. 支部活性化について
 - ・日本大学校友会都道府県支部への分担金があることと 支部活動の活性化を期待して薬学部校友会地方支部へ は補助金として50,000円を支給することとした。
 - ・支部会には会長と大学側教員(校友会役員)が参加す ることとした。
- 3. 基本財産・前納会費について
 - ・Pay off問題を財務委員会で引き続き検討することとした。
- 4. 校友会研究奨励金の授与に関する申し合わせについて
- ・本年度より実施を計画している研究奨励金は、助手を 中心として、校友会に対する貢献度・活動を重視する 方向で薬学部校友会研究奨励金研究者選考委員会へ提 案することとした。
- ・学外の校友に対しても研究助成金を検討してはどうか との提案があり、今後の検討事項にすることとした。

工科系校友会連絡会および支部長会報告

第22回日本大学工科系校友会連絡会および第7回日本 大学工科系校友会支部長会が平成16年8月28日(土)に本 年度の当番学部である生産工学部(大久保校舎)で開催された。連絡会(出席者32名で薬学部8名;会長、副会長(5)、日本大学校友会監事、日本大学校友会常任理事)では、各校友会の運営状況(日本大学校友会準会員制度発足に伴う還付金の件など)、名簿発行に伴う問題点について意見交換をした。支部長会(出席者69名で、薬学部8名および薬学部校友会千葉県支部長 渋江洋介氏)では、校友子女入学試験などについての報告、4学部校友会報告および各支部会の活動報告があった。各支部とも支部会総会への出席者の減少、若い会員の減少、支部運営に伴う経済的な面(支部への支援)など問題が多いとのことである。

会員名簿編集作業始まる(予約販売)

前号会報(40号8頁)でご案内いたしました、「平成16年度版 日本大学薬学部校友会 会員名簿」の編集作業を開始いたしました。平成11年度版に比較いたしますと収載人員は約10,100名で約1,000人の新たな会員が収載されます。しかし昨今の社会情勢から住所・電話・勤務先・勤務先電話の収載を希望されない方は氏名のみの収載になります。

4月に行いました住所調べ以降に氏名・住所・電話・勤務先・勤務先電話に変更があった方は至急事務局までお知らせ下さい。校友会ホームページ上でも修正が出来ます。

今回の配布は予約販売のみとなります。予約は同封振替 用紙で申し込んでください。 記

名 称:平成16年度版日本大学薬学部校友会会員名簿

内 容:特別会員及び正会員 約10,100名収載

配付方法:予約により正会員1冊限定配付

予約価格:5,000円

住所・電話・勤務先・勤務先電話の不掲載を希望する会員で事務局へ届け出未了の会員は11月15日(金)まで郵便又はFAXで事務局まで連絡を下さい。

校友会(桜薬会)ホームページのリニューアル

平成14年12月から公開していますホームページについて、掲載内容の見直しを計画しています。会長挨拶、役員、会合予告・報告、卒後教育・講演会、桜薬会会報、総会・幹事会資料、求人・求職等です。求人については薬学部と連携を図りより充実したものにしたいと計画しています。ご期待ください。

ホームページは下記アドレスですが、薬学部のホームページからもリンクされています。"求人・求職"情報の掲載ページにログインするにはID(会員番号)が必要です。会員番号は封筒の宛名書きの下に記載してある6桁の数値です。

ホームページの管理・運営は桜薬会事務局で行っています。 情報やご意見等下記のメールアドレスにお寄せ下さい。

ホームページアドレス:http://alumni.pha.nihon-u.ac.jp メールアドレス:alumni@pha.nihon-u.ac.jp

お願い・お知らせ

県支部・クラス会を開いて下さい

県支部・クラス会を利用して校友が協力し合い、これまで以上に発展して頂きたく、本年度事業計画では県支部・クラス会の活性化を主要項目にあげております。薬学部校友会創設以来46年目で正会員は10,000人になりました。それに伴い各県内正会員も増えましたので、これを機会に県支部未結成の県にはを支部結成を考えて頂きたいと思います。また既存支部はこれまで以上に活動して頂きたいと思っております。本部では県内居住者の最新版宛名ラベルと祝い金として5万円を提供致します。実行経費はこれで賄えると考えております。宜しくお願いします。

卒業年度毎のクラス会もどしどし開催して下さい。最新 版宛名ラベルと祝い金2万円を準備しております。

日本大学都道府県支部・工科系県支部(理工学部から独立した工学部・生産工学部・薬学部で結成)からも懇親会の案内が届くことがあると思います。仲間を増やし益々のご活躍を期待しております。

校友子女入学試験制度始まる

母校日本大学では平成17年度から日本大学への入学を

第1志望にする者で、日本大学卒業生の子女(子・孫:2 親等内直系血族)を対象に特別試験制度を開始することに なりました。

17年度は芸術学部・国際関係学部・工学部・医学部・歯学部・松戸歯学部・短期大学部(商経・食物栄養の各科)で実施されます。実施方法は各学部で決定しますので、受験を希望される方は薬学部校友会事務室に問い合わせて下さい。

18年度からは全学部で実施されます。

大学対抗箱根駅伝応援に参加しよう

日本大学校友会(本部)では正月恒例(2日.3日)の「大学対抗箱根駅伝」の応援を本年に引き続き、明年正月も校友有志で行うことになり「箱根駅伝振興特別委員会」が本部に設置されました。本年同様に有志の協力・寄付で運営を致します。沿道各地での応援をお願いします。応援のお手伝いに協力頂ける方は薬学部校友会事務局までお知らせ下さい。また募金に協力頂ける方は下記口座にお願いします。

募金振込先:郵便振替 口座番号00120-3-776895 口座名 日本大学箱根駅伝振興特別委員会

平成16年度予算案

16. 4. 1~17. 3. 31

○収入の部

	科		目		予	算	決	算	差	異△
入年		会 会		金 費		350, 000 605, 600	1,	580, 000	Δ	230, 00 187, 60

30, 000 37, 600 5, 102, 000 前納会費積立 度 納 1, 316, 000 入 利 子 2,000 1, 278 722 400.000 IJД 444, 400 44, 400 雑 λ Δ 年 繰 2, 248, 667 前 度 越 2, 248, 667 n 10, 606, 267 10, 692, 345 86, 078 計 合 Δ

○支 出 の 部

科 目		予 算	決 算	差 異△
1 事 業	費			
	費			
印刷	費	1, 800, 000	1, 335, 600	464, 400
編集	費	100, 000	80, 953	19, 047
発 送	費	1, 500, 000	1, 453, 422	46, 578
2 活動補助	費			
卒後教育講	座	300, 000	300, 000	0
支 部	等	260, 000	187, 200	72, 800
学 生 会	員	1, 000, 000	1, 012, 803	△ 12, 803
3 H P 管 理	費	240, 000	193, 285	46, 715
2 会 議	費			
1 総 会	費	600, 000	485, 493	114, 507
2 委 員 会	費	100, 000	85, 207	14, 793
3 印 刷	費	300, 000	194, 565	105, 435
4 発 送	費	750, 000	605, 016	144, 984
3 事 務 局	費			
1 管 理	費	350, 000	308, 290	41, 710
2 人 件	費	1, 200, 000	1, 069, 350	130, 650
3 旅 費 交 通	費	500, 000	164, 360	335, 640
4 通 信	費	150, 000	139, 802	10, 198
4 そ の	他			
1 本部等分担	金	820, 000	820, 000	0
2 慶 弔	費	400, 000	314, 683	85, 317
5 予 備	費	236, 267	0	236, 267
6 次年度繰越	金	C	1, 942, 316	△ 1, 942, 316
合 計		10, 606, 267	10, 692, 345	△ 86, 078

〇本部還付金 報告

科 目	還 付 額	振 替 先	差 異△
本部還付(正会員)	50, 400		
年 会 費 充 当		40, 000	
雑 収 入 (寄 付 金 扱)		10, 400	0
本部還付(準会員)	1, 918, 000		
入会金充当(半額)		1, 200, 000	
年 会 費 充 当		548, 000	
前納会費充当		170, 000	0
合 計	1, 968, 400	1, 968, 400	0

○収入の部

15. 4. 1~16. 3. 31

	科		目		予	算	前	年	差	異△
入		会		金	2,	600, 000	1,	350, 000	1	, 250, 000
年		숲		費	7,	568, 000	6,	605, 600		962, 400
	前 納	会	費 積	$\frac{1}{\sqrt{1}}$	4,	968, 000				
	当 年	度	納	入	2,	600, 000				
利				子		2,000		2,000		0
雑		収		入		400, 000		400, 000		0
前	年	度	繰	越	1,	942, 316	2,	248, 667	Δ	306, 351
	合		計		12,	512, 316	10,	606, 267	1	, 906, 049

○支 出 の 部

科 目	予 算	前 年	差 異△
1 事 業 費	5, 987, 000	5, 200, 000	787, 000
1 会 誌 発 行 費	3, 400, 000	3, 400, 000	0
印 刷 費	1, 800, 000	1, 800, 000	0
編 集 費	100, 000	100, 000	0
発 送 費	1, 500, 000	1, 500, 000	0
2 活 動 補 助 費	2, 025, 000	1, 560, 000	465, 000
卒 後 教 育 講 座	300, 000	300, 000	0
支 部 等	373, 000	260, 000	113, 000
学 生 会 員	1, 352, 000	1, 000, 000	352, 000
3 H P 管 理 費	562, 000	240, 000	322, 000
2 会 議 費	1, 645, 000	1, 750, 000	△ 105, 000
1 総 会 費	730, 000	600, 000	130, 000
2 委 員 会 費	130, 000	100, 000	30, 000
3 印 刷 費	115, 000	300, 000	△ 185, 000
4 発 送 費	670, 000	750, 000	△ 80,000
3 事務局費	2, 710, 000	2, 200, 000	510, 000
1 管 理 費	795, 000	350, 000	445, 000
2 人 件 費	1, 200, 000	1, 200, 000	0
3 旅 費 交 通 費	500, 000	500, 000	0
4 通 信 費	215, 000	150, 000	65, 000
4 そ の 他	1, 262, 000	1, 220, 000	42, 000
1 本部等分担金	820, 000	820, 000	0
2 慶 弔 費	442, 000	400, 000	42, 000
5 予 備 費	908, 316	236, 267	672, 049
合 計	12, 512, 316	10, 606, 267	1, 906, 049

会 費 納 入 報 告

財務委員会

会費を納入いただきました会員の方々の名簿です。ご協力ありがとうございました。誤りがございましたらお知らせ下さい。 (平成16年3月1日~平成16年8月31日)

会費納入者

●2,000円納入者

56池田秀雄,笠井能子,宮田節子 57福永重 弥 58江口弘,恩田正昭,金子佐知子,佐藤 雅子,塚田房,中澤悦子,別当あけみ 59木 村清,倉地芳子,澤地次雄,守護哲二,矢野 哲比古 60斉藤文夫,坂田允,高野俊彦 61 岩瀬光江,草間義道,辻厚子,鳴海紀代子 63泉澤晴子 64西川宣征,広瀬慶子,向井 葵,山岡桂子 65秋元敦信,奥沢弘之,小林郁夫,佐藤富子,佐藤良夫,筒井力彦,宮口たね子 69岸田邦雄 70太田正昭,吉山守72小川康子,奥田由美,山下和代 73柏村豊子 74松村昌子 76吉田善一 77種井政春78寺田百合子 80阪かおる,滝川喜久子82稲村泰代,中村宏典,森由卯子,渡辺正実83高木一正 84飯島勝夫 85中越昭裕 86大月久朗,大賀淳,三宅智子 87高橋久美,安田智子 88鈴木豊治 89鶴岡文徳 91大

道浩代 94井生詩子 99岡澤美穂子 02伊藤リエ 04深澤亜季子 以上67名

●4,000円納入者

58小野都子 67小池恭司 72北中進 77山 口文恵 79北中友子 82岡田真郎, 木村高 久, 後藤知彦 86和田幸子 91小山由美

以上10名

●6,000円納入者

65池脇松秀 77岡田秀己 94冨田英子 以上3名

●10,000円納入者

56荒井美明, 大西芳子, 加賀谷進二, 高玲子, 小沼良子, 瀬川祐司, 塚本美智子 57石毛和 子, 江本悦子, 大橋百枝子, 斉藤允子, 高橋 信昭, 松岡茂樹 58大久保令子, 小川昌保, 高取和郎, 徳竹伯夫, 徳竹喜子, 松嶋俊樹, 村上明代 59大竹昭海, 國友玲子, 佐藤佳 子, 福崎佳久子, 堀端由美子 60射場智恵 子, 小倉操子, 國田五重, 上甲時子, 鈴木京 子, 高橋恭子, 田中重俊, 田中みち子, 西本 行雄, 吉松幹雄 61石田康雄, 齊藤清人, 渋 江洋介, 高橋洋行, 杉本知佐子, 前田敏晴, 三股早代子, 三股輝夫, 吉村幸子 62一色捷 一, 伊東由紀子, 栗原義光, 鈴木隆彦, 田中孝治, 寺地啓子, 山口範子 **63**伊藤益宏, 奥 田政亮, 豊島清麿, 樋渡惟訓, 正木節子 64 小野沢弘子, 小島三千代, 杉野三郎, 杉山翠, 竹内節子, 廣木豊憲, 宮崎光一 65朝飛宏 子, 榎本英機, 小根山正意, 春日純子, 栗原 功, 坂田達哉, 鈴木サク, 土川利昭, 中井温 子 66浅野千代子, 安倍千明, 折原俊巳, 上 村浩子, 若林恵子 67原輝雄, 渡辺公洋 68 釘宮道子 69大窪久夫, 飯塚八重子, 佐々木 泰尚,新谷敏子,杉山信子,瀬尾健一,細田 庸子 70栗田久子 71鈴木恵美子,中田盾 子, 山田陽, 和気成, 渡辺治子 72会田直孝, 相田美子, 泉敏夫, 高木友直, 高木百合江, 高橋至, 千葉真知子, 早坂ノリ子, 増田きよ 美, 松山景子, 矢野間道明, 吉田守 73斎藤 好廣, 関根雅雄 74小林千恵子, 宍戸美根 子, 鈴木雅富, 藤田敬子, 真鍋仁 75天野叔 子 75岩松洋之, 大久保千春, 大谷喜一, 小 池勝也 76大川則行, 進藤美和子, 出口千 佐,松浦晃 77相沢悦子,石郷岡幹雄,奥山 靖子, 鍵原知子, 蔭山幸江, 苅部博哲, 澤木 康平, 豊田道彦, 平野和子, 諸沢博美, 山口 洋子, 渡辺加奈子 78奥山弘明, 小林侑二, 深澤武彦 79阿久津裕子, 伊藤昌美, 岡山得 秀, 謝村錦芳, 商道代, 高橋美江子, 吉岡城 治 80飯塚直人, 市原純子, 加瀬裕子, 中村 洋子,中山浩一,長山幸太郎, 增野浩 81石 渡晴代, 伊藤美智子, 金子美恵子, 小池昌子, 越川藤乃, 小森谷友宏, 松本淳子, 松本卓 82岡野京子, 篠崎勝彦, 馬島潔郷, 迫多賀子, 湯川仁 83犬山彰子, 島崎幸弘, 多田治子, 長峰かおる,長峰富士夫,薄葉俊子 84岸本 達人, 佐香厚, 高橋直樹, 中村枝留実, 佐藤 芳恵, 渡辺茂和 85小林英文 86太田恵美 子, 星加代子, 堀田恵美 87木村あづさ, 高 橋正直, 鍋島香里, 松居美佳, 村上理子 88 緒方寬之, 坂上逸孝, 高梨和男, 永田江利子 89池田篤志, 今牧健之, 上野淳子, 鈴木英二, 鈴木ひろみ, 濱田晴子 90吉川正樹 91深澤 彩由美,深澤仁 92山川恵子,和田英朗 93 愛澤昌宏, 坪内進, 中村和明, 山本学 94安 部恵, 中島千春, 関原亜紀子, 土屋晃一, 杉 下一幸 96濱屋千恵子 00菊池大介 03北 村知穂 以上211名

●12,000円納入者

56吉村恭子 65山川貴子

以上2名

●20,000円納入者

57新庄勝助 60杉崎敦子, 鈴木和子, 由利文 C 61石井静子, 五三博子 63宮本千世子 65木村由美子, 斉藤重野 67長谷川光男 68秋山美智子, 竹林孝子 73栗田眞理子 75土井正道 79齊藤順子 84峯岸順子, 宮 﨑美奈子 87市丸美和子 88熊谷仁 90浅 見覚 91河内朗 93加茂下淳子, 石井睦子 94藤井江美,木村英晃,古賀智子,下村浩子, 山下佳代子, 渡邉淳也 97上原德子 99木崎 大賀 02大野絵美子, 甕常岳 04粟生直子, 秋葉知尋, 莇智史, 飛鳥馬宏, 東博之, 東百 花, 荒淳一, 荒牧智子, 有川宗平, 石井範正, 石崎由里子,石田充,石村淳,衣斐大祐,今井徹,井元あすか,入倉弥生,岩石季里子, 岩佐千尋, 上田千尋, 内川瑠美, 内田禎一郎, 内田朋毅, 梅原大, 遠藤祐子, 遠藤裕希, 大 﨑隆晴, 大澤悠亜, 太田裕子, 大財朋博, 大 西正美,大場真弓,大橋一登,小川めぐり, 長田暢弘, 尾田幸子, 小田哲朗, 小野マリ子, 影山貴史, 加瀬和子, 加藤祐子, 金子頼尚, 加納明人, 加納知恵, 鎌田了輔, 神谷徹也, 川崎真理子, 川野千尋, 河原崎有紀子, 神田 裕子, 菊池英理子, 木下朋子, 木下史一, 木 下美枝子, 木村恵美子, 木村有揮, 國﨑仁美, 小出百合子, 河野恵子, 呉屋聡子, 近藤綾美, 齋藤杏菜, 齊藤啓史, 齋藤麻由, 在間知佳, 酒井理予, 佐々木雅由, 佐藤綾子, 佐藤直希, 佐藤由依, 佐野絵理, 鹿野友宏, 澁谷志摩子, 島盛一郎, 島田早織, 菅原悟, 鈴木健史, 鈴 木直哉, 住吉祐介, 清田宏樹, 関根尚子, 関 根光穂子, 妹尾泰寛, 添野恭子, 髙田富美重, 髙中妙子, 髙橋美果, 武久美子, 竹内英介, 武田直子, 田中静香, 田中里奈, 田邉裕佑, 丹野真佐史, 常山麻美, 土井尻みずほ, 豊泉 隆, 中川真理子, 長坂亮, 永田勇貴, 並木裕 美,成嶋彰人,西谷周子,根本喜美子,野本 実希, 畑内弘真, 林聡美, 原田めぐみ, 平田 江里, 平野仁美, 蛭田剛俊, 二見直樹, 星智 久, 星野由紀子, 松本恵美子, 三浦綾子, 三 平惠基, 箕輪由貴子, 宮坂瑛一, 宮島京子, 三輪亜梨紗, 武藤恵子, 望月謡子, 森本亜希 子,八木美才,柳原ゆき,矢貫舞,山本千春, 山本真梨子, 山本美智子, 湯本学, 横倉千華, 横山涼子, 渡邉和人, 渡邉舞 以上168名

●30,000円納入者

以上2名

●46,000円納入者

84後藤明彦

以上1名

平成15年度本部正会員会費納入者 (薬学部校友会へ会費還付があった者)

56原田貞亮 57一ノ瀬衛,森田允子 59椛 澤洋三,山内盛 60奥窪伸之,斉藤文夫,鈴 木和子 61前田敏晴 63武井侑代 64小松康宏,渡邊和子 65小林郁夫 69坂田秀臣 70字野澤まり子 74伴野和夫 75鎌田みづ江 76石田制利,鈴木孝,本橋重康,吉田善一 77塚本利夫 78高野英夫 79川島仁子,齊藤順子 80梅沢芳史,田中香代子 81高柴泰子,畑伸一 82山口耕一郎 85栗城華枝 88緒方寛之 90西村伸大 以上33名

入会金納入者

○平成13年入学者

大坂つかさ,小島亜紀,髙橋真紀子,仲島久 美子,宮﨑恵理 以上5名

○平成14年入学者

佐藤直富実, 杉本沙帆, 八鬼幸代, 渡邊悠里, 西村怜子 以上5名

平成15年度本部準会員会費納入者 (薬学部校友会へ会費還付があった者)

○平成15年大学院入学者

03古谷美野里

以上1名

○平成15年学部入学者

大塚智之

以上1名

会報封筒宛名欄会員番号に☆印 のついている方は本年度会費が 未納の印です。会費納入をお願 い致します。

会費は年額2,000円です。 事務簡素化のため5年分10,000円 又は10年分20,000円を一括納入 して頂ければ幸甚です。



発行日 平成16年10月15日

編集人 日本大学薬学部校友会事業委員会

発行人 日本大学薬学部校友会 山内 盛

印刷所 協友印刷㈱

TEL 03-3267-8056

発行所 千葉県船橋市習志野台7-7-1

日本大学薬学部内(〒274-8555) 電話・FAX 047-465-1478(直通) 振替口座番号 00140-0-53798

振替口座名 日本大学薬学部校友会